

第 15 回アンケート結果 (抜粋)

1. 一般講演 4 : 「プロジェクト管理に於けるパフォーマンス測定方法に関して」

1. プログラムの行数に大きな動きがあった部分で、特に重要な動きがないことはないのでしょうか？プログラムの進行度が動きのすべてなののでしょうか？

=>本システムの目標は作業上の変化点を自動的に検知して、システムから作業者に知識の登録を促すことです。そこで、作業能率の変化を検知する手法としてプログラム行数の変化を計測することを試みています。その結果、作業能率に変化のあった点では有効な部品が使われていたり、手戻りがあつたりすることが明らかになりました。しかし、この結果は作業者の 1 人 1 人の立場の話であり、ご質問の様に特に重要な動きとするとマネージャから見た変化が考えられます、しかし残念ながら現状は 2 人の作業者に対する測定であり、マネージャから見た状況変化の検知と知識登録は今後の課題です。

2. 「プログラムの累積行数」のグラス上で時間の最大単位は 1 日でしょうか？

=>作業能率の拡大図の横軸の単位は日です。測定を行ったプロジェクトは 1 0 0 0 日程かかっています。

3. 焦点をあてている所 (何をどう使うか) と提案内容との関連が、いまひとつ理解できませんでした。

=>今後の物創りは良いものを作るのではなく、使えるものを如何に安く、早く作るかだと考えます。良いものとはお客の要求スペック通りで不具合のないものであり、使えるものとはお客が使えるもので、必ずしもお客の要求スペック通りではないものです。使い方や製品の目的を理解していれば、お客に提案をすることができます。現場ではこれをバリューエンジニアリングと呼んでいるようです、バリューエンジニアリングではより良いものを安く、早く仕上げるためには下請けの提案も受け、客先にも提案しようとしています。提案を行うためには、過去の知識や不具合とリンクした裏付けのある確かな提案が必要です。そこで、提案を行うためには現場の不具合や知識を蓄積して使い方や目的まで積み上げて記録しておく必要があると考えます。当然、開発作業開始前にスタッフが製品の目的や使い方を理解していれば製作上での手戻りは確実に減ると思われれます。

4. 何を、何の目的で設計するの？、初期設定あるいは理解の重要なところは同感です。

=>最近、客先の仕事に興味の無い人が多いように思えます。引いては仕事にも興味が無い訳で仕様間違いや勘違い、配慮不足が頻発することになります。古川先生の言われた通り、今後のテーマは“興味”ではないのでしょうか。

5. 工数管理と進捗管理の関連が見えなかったように感じました。

=>工数を読み間違えると進捗が遅れます。また不具合が発生すると工数が増えますし、そこで工数の削減や工程の融合を行わなければ工数が増大して進捗が遅れます。つまり、進捗管理とは工数（作業）管理であり、正確な進捗管理を行うためには工程や作業の細かな性質を理解することが必要となります。“やります”や“やれ”などという精神論では作業の削減や工程の融合はできません。また、EVM法では作業の積み上げを金額に換算して進捗を管理します。通常、現場では複数のプロジェクトが走っていますので、効率的な作業を行うためには通常の前管理のようにプロジェクト単位に横に見るのではなく、1週間ごらの幅で複数のプロジェクトを通して縦向きに管理すべきだと考えます。実際、足の長いプロジェクトでは途中でとんでもないことが起きて工程が遅れるかもしれませんし、納期が遅れた場合には営業的な問題になりますので、現場ではこの1週間をどう効率的に進めるかに注力すべきであると考えます。私が過去に担当した製品開発プロジェクトでもある部品の分留まりが悪く、納期が遅れたことがあります。このような場合、発注側の進捗管理ではどうしようもありません。

そこで、進捗管理とは短いスパンでの現場の工程、工数管理であるべきだと考えます。工程や作業を理解するためには作業の性質や特徴に関する知識登録が必要になります。